

マグナとふしぎの少女・WorldClassroomの活用

実践内容



【マグナとふしぎの少女（小学校）】

- ・朝活動や授業開始の直後など、短時間で繰り返し行った。
- ・児童のレベルに合わせて活動内容を設定できるので、全学年の児童がアプリを活用することができた。
- ・ゲーム性が高く、児童は、正解すると両手を挙げて喜び、間違えると首をかしげて再挑戦するなど、楽しみながらも粘り強く取り組む姿があった。

【WorldClassroomの活用（中学校）】

- ・英会話や発音を繰り返しAIに添削させて、自身の文法や発音を向上しようとする姿があった。
- ・縦割りのグループをつかって、インドネシアの中学生と国際交流を行うことができた。
- ・インドネシアの中学生とのやりとりを通して、話す・聞く力の大切さに気付く姿が見られた。



【愛知県高森台中の視察】

- ・デジタル教科書やプレゼンテーションアプリを活用しながら、生徒が各自のペースで取り組める授業を展開していた。
- ・単語の発音や意味を繰り返し聞くことで、全体の音読がスムーズになっていた。
- ・「情報の時間」で養われた情報活用能力が英語の授業にも生かされていた。

成果と課題

・「マグナとふしぎの少女」は、教師だけでアプリを導入することが難しかったが、村で雇用したICT支援員に設定していただき、導入することができた。導入するまでに時間がかかったが、アプリ導入後は、朝活動で主体的に学ぶ姿や、ALTと英会話する児童の姿が見られた。

・中学校では、英会話や発音をAIに添削させることで、生徒の話す・聞く力が向上した。国際交流では、回線容量の少なさから、4～5名の生徒で1台の端末を使用した。個別にやりとりできる環境を整えることで、生徒の話す・聞く力のさらなる向上につなげたい。次年度は、国際交流の回数を増やす予定である。

・県外視察で学んだ取り組みを職員に周知、共有しながら、みんなで共に取り組める研修(小中連携も含め)などの場を創出していきたい。